【論　　文】

接辞の語彙化*

姫　田　慎　也

1. はじめに

英語の接辞（affix）は[1]，西川（2013: 16）によると接頭辞（prefix）が約155項目，接尾辞（suffix）は約133項目，計約288項目存在する[2]。接頭辞についてKodani（2000: 40-42）によると，そのほとんどは基体（base）に付与することによって基体の意味を変化させた派生語（derivative）を形成するが，接頭辞の多くは基体の品詞を変えることはない。また，接尾辞について竝木（1985: 15）によると，付与する基体の意味を変え，いくつかの例外を除いてそのほとんどが付与する基体の品詞を変える。

接辞の中には少数ではあるが，語として使用される例が存在する[3]。たとえば，「ディスる」というカタカナ語は，そのもととなるdisが存在する。動詞及び名詞として使用されるdisは，respectに接頭辞dis-が付与してできた派生語であるdisrespectが基体である。

また，名詞として使用されるism（主義，学説）のように，接辞が付与した特定の派生語を語形短縮（clipping）したのではなく，接辞そのものが転換（conversion）し[4]，語彙化（lexicalization）したものであると想定される例も存在する。

竝木（2009: 25）は，接辞が転換した例として（1）をあげている。（1a）のantiにおいては接頭辞anti-が，（1b）のretroにおいては接頭辞retro-が形容詞になったものである。

* 本稿の執筆に際して大変貴重なご指摘・ご助言をいただいた編集委員長ならびに匿名の査読委員の先生方に感謝申し上げる。なお，本稿における不備や誤りはすべて筆者の責任による。

『日本英語英文学』第32号（2022）25-49
©2022 日本英語英文学会

（1） a. I'm very anti that sort of behavior.
（私はあの種の行為にはとても反対だ。）
b. This chair is very retro.（この椅子はとても懐古趣味的だ。）
（以上，竝木 2009: 25）

また，（2）は接辞から形容詞へ転換したのではなく，特定の派生語から語形短縮した例である[5]。
（2a）のminiはminiskirt，（2b）のexはex-husbandが語形短縮されている。

（2） a. She was wearing a mini.（彼女はミニスカートをはいていた。）
b. He is my ex.（彼は私の元夫です。）
（以上，竝木 2009: 25）

本稿では，特定の派生語から語形短縮して接辞が短縮語になったパタン（disrespect→dis），接辞が転換したパタン（接尾辞-ism→名詞ism），特定の派生語からの語形短縮及び接辞の転換の両方の特徴をもつパタン，以上の3つのパタンに分類し，それぞれの特徴について考察する。

2. 特定の派生語からの語形短縮

接辞が特定の派生語から語形短縮し，語として辞書に記載されている例についてみていく。なお，参照辞書として，本稿で扱う接辞及び短縮語の意味と語源，用例は*Oxford Dictionary of English* [ODE]を基に参照し，必要に応じて*Oxford English Dictionary Online* [OED], *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English* [OALD], *Longman Dictionary of Contemporary English* [LDCE], *Oxford Sentence Dictionary* [OSE], *Shorter Oxford English Dictionary on Historical Principles* [SOED], *Random House Unabridged Dictionary* [RHUD], *Webster's New World Dictionary of American English* [WEB],『ジーニアス英和大辞典』,『新英和大辞典』,『リーダーズ英和辞典』,『大辞林』,『現代カタカナ語辞典』を参照する。

語形短縮について，竝木（2009: 147）では「形式ばらない（informal）」表現となるものの，基本的には語形短縮によって短くされた語ともとの語は

同じ意味であるとしている。しかし，短縮語の中には派生語とそれが語形短縮された短縮語が同じ意味にならない例も存在する。竝木（1985: 29）ではcoeducation（男女共学）とcoed（共学の学校，特に大学の女子学生）との違いをあげている。また，竝木（2009: 149-150）ではexaminationの短縮語であるexamとの関係について，「試験問題」や「試験の冊子」という具体的な物を表す場合はどちらも使用できるが，「試験すること」という行為や過程を表す場合，examは使えないとしている。

2.1. dis

ODEでは，disrespectの語形短縮を受けた形のdisはインフォーマルなアメリカ英語である。disには動詞と名詞があり，動詞の意味としては ‘speak disrespectfully to’，名詞の意味として ‘disrespectful talk’ とある。OEDにおける動詞disの初出例が1980年，名詞disの初出例は1986年であるが，基体となる動詞disrespectの初出例が1614年，名詞disrespectの初出例は1631年である。基体と短縮語とは250年以上の隔たりがある。

（3）はdis（s）が他動詞として用いられている例である。

（3） He was expelled for <u>dissing</u> the gym teacher. （ODE, *dis*, verb）

派生語とその短縮語が同義語か否かという点において，disとdisrespectの違いについて考えたい。

ODEでは，動詞disの意味は ‘speak disrespectfully to’ であるが，動詞disrespectの意味は ‘show a lack of respect for; insult’ である。名詞disの意味として ‘disrespectful talk’ であるが，名詞disrespectの意味は ‘lack of respect or courtesy’ である。disの意味としては，言葉による無礼を表すが，disrespectは言葉だけでなく無礼な態度も含まれる。

LDCEでは，動詞disの綴りとしてdissを記載しており，動詞としての意味は ‘to say unkind things about someone you know’ とある。ここでも言葉による無礼と解釈できるが，動詞disrespectの意味は ‘to say or do things that show a lack of respect for someone’ とあり，言葉以外のものも含まれるため，やはり動詞disとは同義ではない。LDCEではdisの名詞としての記載はない。

OALDにおいては，disは動詞であり，意味は ‘to show a lack of respect for sb, especially by saying insulting things to them’ とある。OALDでの動詞disrespectの意味は ‘to speak about or treat sb/sth without respect’ とあり，やはり，動詞disは言葉によるもの，動詞disrespectは言葉以外のものも含む。OALDでもdisの名詞としての記載はない。

RHUDにおいては，disは名詞，動詞ともに記載しており，名詞が先に記載されている。名詞disの意味は ‘insult or disparagement’ とあり，名詞disrespectの意味は ‘lack of respect; discourtesy; rudeness’ である。動詞disの意味は ‘to show disrespect for; to disparage’ とある。動詞disrespectの意味は ‘to regard or treat without respect; regard or treat with contempt or rudeness’ であり，やはりdisは言葉によるものを指し，disrespectは言葉以外のものも含まれると解釈できる。

一方，OEDにおいては，動詞disの意味は ‘To show disrespect for by using insulting language or dismissive behaviour; to abuse or insult, usually verbally.’ とあり，名詞disの意味は ‘Failure to show respect; abuse, disparagement; an expression of scorn or contempt, an insult.’ とあるため，動詞においても名詞においてもdisは言葉と行為の両方が含まれる。

動詞disrespectと動詞disには用法に関する違いもみられる。OALDではdisrespectの他動詞の使用例として（4）を記載している。

（4） They were accused of <u>disrespecting</u> the country’s flag.
（OALD, *disrespect*, verb）

OALDでは動詞disrespectの使用について，‘Some people consider that it is not correct to use disrespect as a verb, and that you should use the noun instead, especially in formal and written English.’ とあり，（4）の代わりに（5）の使用を推奨している。

（5） They were accused of treating the country’s flag with <u>disrespect</u>.
（OALD, *disrespect*, noun）

近年，日本語の「ディスる」というカタカナ語を見聞きする。『大辞林』

においては「ディスる」を「disrespect（無礼，失礼）やdisparage（軽んじる，けなす）などを意味する俗語であるdisに「る」を付加した造語」とある。『現代カタカナ語辞典』には「ディスる」は記録されていないため，カタカナ語としての「ディスる」は新しい語といえる。

ODEによるとラテン語起源である接頭辞dis-の意味は，1. ‘expressing negation’（例: disadvantage, disbelieve）, 2. ‘denoting reversal or absence of an action or state’（例: diseconomy, disaffirm）, 3. ‘denoting removal of something’（例: disbud）, 4. ‘expressing completeness or intensification of an unpleasant or unattractive action’（例: disgruntled）の4つに分類されている。

接頭辞dis-は複数の意味を持つため，生産性があると考えられ，接頭辞dis-付与による派生語が数多く存在する。短縮語である動詞disは派生動詞disrespectからの語形短縮であると述べてきたが，disrespectからのみの短縮語ではない。disの基体として，WEBでは，discount及びdistance，RHUDでは，disparage，OEDではdiscount, disconnected, distributeが記載されている。

将来的にdisがこれらの派生語以外からの短縮語として使用される可能性もあるため，disを使った用例の収集をさらに行う必要がある。

2.2. homo

ODEでは，homosexualからの短縮語としてのhomoは，homosexualと同様，名詞と形容詞がある。OEDにおけるhomosexualの初出例は形容詞が1891年，名詞が1894年で，短縮語としてのhomoの初出例は形容詞，名詞ともに1923年である。homosexualの初出例から短縮語であるhomoの初出例まで約30年しか経過していない。

LDCEにおいて，homoはタブー語であり，‘Do not use this word.’と記述されている。意味として，‘a very offensive word for a HOMOSEXUAL’とある。

RHUDにおいても‘disparaging and offensive’とあるため，homosexualよりもhomoの方が侮辱的なニュアンスを含むようである。

さらに，homoとhomosexualの違いとして，性別について考えたい。（6a）のhomoはlesbianと対比させており，（6b）のhomoは補語としてgayを用いていることからともに男性であることが分かる。

（6） a. Early porn photography was predominantly focused towards men, depicting a variety of hetero, lesbian, and homo acts.
（OSD, *homo*, adjective）

b. Much like the homos of the 1950s who felt guilty for being gay, I feel guilty about not being gay enough. （OSD, *homo*, noun）

（7a）は異性愛者（heterosexual）という意味のheteroと，同性愛者（homosexual）という意味のhomoを対比させており，（7a）のhomoは必ずしも男性の同性愛者とはいえず，女性の同性愛者を含む可能性がある。（7b）におけるhomoは女性を指す。

（7） a. Like most of these discussions, it was framed in terms of heteros vs. homos. （OSD, *homo*, noun）

b. Shit, God, jeepers, she was a homo! Queer. （OED, *homo*, n.[2]）

OED, SOED, RHUD, LDCEでは名詞homoをhomosexualからの短縮語としているが，ODEでは，名詞homoの意味は ‘a homosexual man’ とあり，男性同性愛者を示している。しかし，名詞としてのhomosexualの意味は ‘a person who is sexually attracted to people of their own sex’ とあり，性別については述べられていない。

名詞としてのhomosexualについては，OALDでは ‘a person, usually a man, who is sexually attracted to people of the same sex’，LDCEでは ‘if someone, especially a man, is homosexual, they are sexually attracted to people of the same sex’ とあり，男性を示す。一方，SOEDでは ‘A person who is sexually attracted（often exclusively）to people of his or her own sex.’，OEDでは‘A homosexual man;（in weakened sense）an effeminate or affected man. Also occasionally; a homosexual woman, a lesbian.’，『新英和大辞典』では，「日本語の「ホモ」は普通は男性の同性愛者にのみ用いるが，英語のhomoは女性についても用いられる。」とあるため，男性だけでなく女性に対する使用が確認できる。

（8）におけるhomosexualはlesbianと対比させていることで，男性を示すが，（9）においては性別が不明である。

（8） a. No longer can homosexuals or lesbians be stigmatized as sexual deviants by the law. （OSD, *homosexual*, *lesbian*, noun）

b. The women claimed the ruling threatened unmarried heterosexual couples as well as homosexual and lesbian ones. （OSD, *homosexual*, *lesbian*, adjective）

（9） a. Sexual temptation, including homosexual temptation, is not sinful. （OSD, *homosexual*, adjective）

b. Mrs. Foreman said her group was not against homosexual people and respected their choice of sexuality. （OSD, *homosexual*, adjective）

以上から，homosexualが男性のみを示すとは断定できないケースが存在するといえる。

ODEによると接頭辞homo-の起源は ‘same’ の意味であるギリシャ語 *homos* であり[6]，1. ‘same’（例 : homogametic）, 2. ‘relating to homosexual love’（例 : homoerotic）の意味で使用される。

「ヒト属，人間」という意味で名詞Homoが存在するが，Homoはラテン語源である。OEDにおいて，homoはhomosexual以外の語からの短縮語の記載がなく，homosexual以外からの語形短縮の可能性は低いといえる。

2.3. bi

ODE, OED, SOED, RHUD, OALDでは，biは‘bisexual’からの短縮語としている。OEDにおける短縮語biの初出例は形容詞，名詞ともに1957年，基体となる形容詞bisexualが1793年，名詞bisexualは1855年であり，短縮語biの初出例までに1世紀以上の隔たりがある。

基体となる形容詞homosexualの初出例が1891年，bisexualの初出例は1793年とbisexualの方が古いのに対し，短縮語はhomoが1923年，biは1957年とhomoの方が古い。

品詞は，ODE, OED，SOED, RHUDでは形容詞及び名詞，OALDでは形容詞としている。（10）は形容詞biの使用例である。

（10） a. It’s great that your friend is able to tell someone she’s bi.
（OSD, *bi*, adjective）
b. Her parents never knew she was bi – still don’t. （OED, *bi*, adj.）

ODEによるとラテン語起源の接頭辞bi-の意味は ‘doubly, having two’（例: bicoloured, biathlon）である。

接頭辞bi-が付与された派生語はジーニアス英和大辞典では約140語ある。極めて多くの派生語が存在する接頭辞bi-であるが，biの基体としてbisexualのみが記載されている。

2.4. hood（’hood）

ODEでは名詞hood（’hood）は1970年代，OEDでは1967年にneighbourhood（neighborhood）からの短縮語として登場としている。OEDではneighbourhoodの初出例がa1425であるため，500年以上の隔たりがある。

ODEでは名詞hoodはインフォーマルで主にアメリカ英語での使用とあり，意味として ‘a neigbourhood, especially one in an urban area’ とある。OED, SOED, RHUD, OALD, LDCEにおいてもhoodはneighborhoodのアメリカ英語の短縮語としている。（11）のhoodはneighborhoodの意味で用いられている。

（11） And if you’re in the hood, make sure to come to the fabulous party tomorrow night. （OSD, *hood*, noun）

また，ODEでは，接尾辞としての-hoodは1. ‘denoting a condition or quality’（例: falsehood, womanhood）と 2. ‘denoting a collection or group’（例: brotherhood）の2つの意味を持ち，neighborhoodは後者の意味の接尾辞-hoodが付与した派生語である。

OEDではhoodlum（不良，チンピラ）の短縮語として1930年にhoodの初出例が記載されているが，最新の用例が1966年である。hoodは現在のところ，neighborhoodとhoodlumからの短縮語であるといえるが，短縮語としての歴史が浅いため，今後，接尾辞-hoodが付与した他の派生語からの短縮語として語彙化する可能性も想定される。

2.5. mono

2.5.1. 名詞 mono

ODEでは，接頭辞mono-は‘alone’を意味するギリシャ語*monos*を起源とし，意味は，1. ‘one; alone; single’（例: monocoque），2. ‘containing one atom or group of a specified kind’（例: monoamine）である。

接頭辞mono-が付与した派生語は数多く存在するが，ODEでは名詞monoの基体としてmonophonic recording, monochrome picture, mononucleosis, monoflilamentが記載されている。OEDではそれ以外の基体としてはmonohull（単胴船）の記載に留まる。

OEDによるとmonophonicの初出例が1828年，短縮語の初出例は1959年，monochromeの初出例は1662年，短縮語の初出例は1970年，mononucleosisの初出例は1907年，短縮語の初出例は1964年，monohullの初出例は1967年，短縮語の初出例は1977年である。接頭辞mono-付与の派生名詞は意味によって初出例の年に大きな隔たりがあるが，短縮語monoは基体に関係なくおおよそ同時期に登場する。

（12a）のmonoはmonophonic recording（モノラル録音），（12b）のmonoはmononucleosis（単球増加症）からの短縮語である。

（12）a. On this track, the stereo is but marginally better than the <u>mono</u>.
（OSD, *mono*=monophonic recording, noun）

b. He or she might want to test you for other sickness that are like <u>mono</u>.
（OSD, *mono*=mononucleosis, noun）

2.5.2. 形容詞 mono

ODEでは形容詞としてのmonoはmonophonic, monochromeからの短縮語である。OEDによるとmonophonicの初出例が1828年，短縮語の初出例は1959年であり，monochromeの初出例は1918年，短縮語の初出例は1964年である。接頭辞mono-付与の基体名詞と同様，基体形容詞の初出例の年に隔たりがあるが，短縮語は同時期の登場である。

（13a）のmonoはmonophonic（モノラルの），（14b）はmonochrome（白黒の）からの短縮語である。

（13） a. The mono recording is fair enough.（OED, *mono*=monophonic, adj.[1]）
b. It's mono, of course, and there's no backlight, but what do you expect for £77?（OSD, *mono*=monochrome, adjective）

2.6. まとめ

本節では特定の派生語から語形短縮して語彙化された接辞について考察した。たとえば，複数の派生語が存在する接頭辞in-, un-や接尾辞-ness, -ly等は語彙化されていない。また，複数存在する派生語の中から特定の派生語が語形短縮した理由については不明点が多い。特定の派生語から語形短縮する要因と，語彙化する接辞の特徴についてさらに考察していく必要がある。

接頭辞homo-付与による派生語は『ジーニアス英和大辞典』では70語以上が記載されている。見出し語に重要度の表示が付いているのが[7]，homosexual及びhomosexualityのみである。重要度の高さは使用頻度の高さにも関連していると考えられるため，homoがhomosexualからのみの短縮語となった可能性が考えられる。しかし，biについては，たとえばbicycleには重要度の高さを示す表示がされているが，bisexualは何も表示されていない。派生語の使用頻度と接頭辞の語形短縮との関係についてさらに調査する必要がある。

3. 接辞の転換

接辞が基体となる派生語から語形短縮して接辞が語彙化されるのではなく，接辞がそのまま転換したと考えられる例が存在する。

3.1. ism/ist[8]

3.1.1. ism

ODEによると接尾辞-ismは古フランス語-*isme*，ラテン語-*ismus*, -*isma*，ギリシャ語-*isos*, -*isma*を語源としており，1. 'denoting an action or its result'（例: baptism, exorcism）; 'denoting an action or its result'（例: 'barbarism', 2. 'denoting a system, principle, or ideological movement'（例: Anglicanism, feminism, hedonism）; 'denoting a basis for prejudice or discrimination'（例:

racism), 3. ‘denoting a peculiarity in language’（例: colloquialism, Americanism), 4. ‘denoting a pathological condition’（例: alcoholism）の4つの意味に分類される。名詞ismは接尾辞-ismが付与した特定の派生語の短縮語ではないが，名詞ismは接尾辞-ismが持つ意味を含んでいる。

ODEによると名詞ismはインフォーマルであり，17世紀後半（OEDでの初出例は1680年）に接尾辞-ismの独立用法（independent usage）として登場する。名詞ismの意味は ‘a distinctive practice, system, or philosophy, typically a political ideology or an artistic movement’ とある。（14a）のismはfascismを接尾辞-ism付与の派生名詞からの語形短縮，（14b）のismはsexism, ageism, racism等の接尾辞-ism付与の派生名詞からの語形短縮である。ともに特定の基体からの語形短縮ではなく，接尾辞-ismが独立したものであると考えられる。

（14）a. Of all the <u>isms</u>, fascism is the most repressive. （ODE, *ism*, noun）
b. You’re always talking in <u>isms</u> – sexism, ageism, racism.
（OALD, *ism*, noun）

3.1.2. ist

ODEでは，接尾辞-istは古フランス語-*iste*，ラテン語-*ista*，ギリシャ語-*istēs*を語源とし，意味は1. ‘denoting an adherent of a system of beliefs, principles, etc. expressed by nouns ending in -ism’（例: hedonist, Marxist）; ‘denoting a person who subscribes to a prejudice or practices discrimination’（例: sexist), 2. ‘denoting a member of a profession or business activity’（例: dentist, dramatist, florist); denoting a person who uses a thing’（例: flautist, motorist）; denoting a person who does something expressed by a verb ending in -ize’（例: plagiarist）が存在する。

名詞istはOALD, LDCE,『ジーニアス英和大辞典』,『リーダーズ英和辞典』には語彙として記載されていないが，ODEでは名詞istと同様，接尾辞-ismから語として17世紀後半（OEDでの初出例は1811年）に独立使用とある。（15a）では名詞istは「学者」という意味で，（15b）では「専門職」あるいは「職人」という意味で名詞ianと並べて名詞istが使用されている[9]。

（15） a. The program lets biologists, geologists, and other ists imagine earth 5 million, 100 million, and 200 million years from now.
（OSD, *ist*, noun）

b. These followers, the ians, ists, etc. of their chosen Religion are exactly that; a category, a denomination. （OSD, *ist*, noun）

接尾辞 -ist 付与の派生語は複数存在するが，ist は特定の派生名詞の語形短縮ではなく接尾辞 -ist が転換したものであると考えられる。

3.2. fore

接頭辞 fore- は ODE によると語源は古英語で，動詞に付与する場合の意味は ‘in front’（例 : foreshorten）; ‘beforehand, in advance’（例 : forebode, foreshadow），名詞に付与する場合の意味は ‘situated in front of’（例 : forecourt）; ‘the front part of’（例 : forebrain）; ‘of or near the bow of a ship’（例 : forecastle）; ‘preceding, going before’（例 : forefather）である。

ODE では fore は形容詞，名詞，感嘆詞，前置詞が記載されているが，本稿では形容詞と名詞の fore についてみていく。形容詞 fore は 15 世紀後半（OED での初出例は 1490 年）に接頭辞 fore- から独立したものである。（16）のように，形容詞 fore は限定用法で用いられ，意味は ‘situated or placed in front’ とある。

（16） A valve member is provided at a fore end of the movable part.
（OSD, *fore*, adjective）

ODE では名詞 fore は 10 世紀初頭（OED での初出例は c900）に登場する。名詞 fore の意味は ‘the front part of something, especially a ship’ とあるが，（17）の名詞 fore は船舶以外での使用例である。

（17） In the ’60s, the Beatles were the fore of the counter culture, unpredictable and daring. （OSD, *fore*, noun）

語としての fore は接頭辞 fore- が付与した特定の基体からの語形短縮では

なく，接頭辞 fore- が持つ意味を維持しつつ語彙化したものであると考えられる。

3.3. anti

接頭辞 anti- は ODE によると語源は ‘against’ の意味のギリシャ語 *anti* で，意味は ‘opposed to, against’（例：anti-aircraft）; ‘preventing’（例：antibacterial）; ‘relieving’（例：antipuritic）; ‘the opposite of’（例：anticlimax）; ‘acting as a rival’（例：antipope）, ‘unlike the conventional form’（例：anti-hero）である。

ODE では anti は前置詞，形容詞，名詞であり，起源は 18 世紀後半（OED での初出例は 1788 年）に接頭辞 anti- から独立したものである。前置詞 anti の意味は ‘opposed to, against’ とある。（18）は前置詞 anti の使用例である。

（18）I’m anti the abuse of drink and the hassle that it causes.
（ODE, *anti*, preposition）

ODE では形容詞 anti の意味は ‘opposed’ である。（19a）は叙述用法，（19b）は限定用法として使用されている例である。

（19）a. The local councils are anti. （ODE, *anti*, adjective）
b. But even in January 1975 the anti campaign still has an 8% edge.
（OSD, *anti*, adjective）

ODE での名詞 anti の意味は ‘a person opposed to a particular policy, activity, or idea’ である。（20）のように複数形としての使用もみられる。

（20）I don’t think there were many antis and I think it would be ideal to use that area if we can pull it off. （OSD, *anti*, noun）

形容詞及び名詞 anti は，接頭辞 anti- が付与した派生形容詞及び派生名詞からの語形短縮と考えるというよりも，接頭辞 anti- が持つ意味を含んで語彙化したものであると考えられる。前置詞 anti については接頭辞 anti- が付

与した派生前置詞が存在しないため，接頭辞anti-から転換したものであるといえる。

3.4. counter

ODEによると接頭辞counter-の語源は ‘against’ の意味のラテン語*contra*で，意味は ‘denoting opposition’, retaliation, or rivalry（例: counter-attack, counter-espionage); ‘denoting movement or effect in the opposite direction’（例: counterpoise); ‘denoting correspondence, duplication, or substitution’（例: counterpoise）である。

ODEではcounterは動詞，副詞，形容詞，名詞であり，語源は接頭辞counterと同様，‘against’ の意味のラテン語*contra*である。OEDでの初出例は古い順に動詞（c1325），名詞（c1330），副詞（c1446），形容詞（1596年）である。

ODEでは動詞counterの意味は ‘speak or act in opposition to’ とある。(22) は動詞としてのcounterの使用例である。

（21）The second argument is more difficult to <u>counter</u>.（ODE, *counter*, verb）

ODEでは副詞counterの意味は ‘in the opposite direction or in opposition to’ である。(22) は副詞として使用されている例である。

（22）His writing ran <u>counter</u> to the dominant trends of the decade.
（ODE, *counter*, adverb）

ODEでは形容詞counterの意味は ‘responding to something of the same kind, especially in opposition’ である。(23) は形容詞として使用されている例であるが，限定用法で用いられる。

（23）After years of argument and <u>counter</u> argument there is no conclusive answer.（ODE, *counter*, adjective）

ODEでは名詞counterの意味は‘a thing which opposes or prevents some-

thing else’である。（24）は名詞として使用されている例である。

（24） The stimulus to employers’ organization was partly a counter to growing union power. （ODE, *counter*, noun）

語としてcounterは複数の品詞で広く使用されている。接頭辞counter-の意味を維持したまま使用されており，特定の派生語からの語形短縮ではなく接頭辞counter-からの転換であるといえる。

3.5. vice

ODEでは名詞viceをインフォーマルであり，vice-president, vice admiral等からの短縮語としている。接頭辞vice-は‘in place of’の意味のラテン語*vice*を語源とし，意味として‘next in rank to, and typically denoting capacity to deputize for’（例: vice admiral, vice-president）である。

OEDでの短縮語viceの初出例は1597年で，‘In modern use the second element is usually implied or expressed in the context, as in quot.1853.’と説明があり，コンテクストによって，viceが複数の接頭辞vice-付与による派生語からの短縮語になり得るといえる。

（25a）および（25b）のviceはともにvice-presidentからの短縮語である。

（25） a. He said a president, his vice and other government leaders should not have a background of smoking dagga and engaging in homosexuality. （OSD, *vise*=vise-president, noun）

b. The president of the mess rose..and brought down his silver mallet. ‘Mr. Vice, the Queen,’ that officer said, addressing the vice-president at the opposite end of the table. （OED, *vise*=vise-president, n.[7]）

なお，viceには，名詞として「悪，不道徳，売春」等の意味をもつ語彙があるが，ラテン語*vitium*が語源であるため，「代理，副，次」を表すラテン語起源のviceとは異なる。

3.6. まとめ

本節で取り上げた例は，特定の基体からの語形短縮ではなく，接辞の転換によるものであるといえる。接辞が名詞，形容詞，動詞等に転換した例以外に，接辞が前置詞に転換した例（in, under, with 等）が存在する。

接辞の転換の過程を考察する上で，今後の課題として接辞が語として確立した前置詞との関連について調査したい。

4. 語形短縮と転換の両方の特徴をもつ接辞

ひとつの接辞が特定の基体から語形短縮するパタンと転換するパタンの両方がみられる例についてみていきたい。

4.1. micro

4.1.1. 名詞 micro

ODE では接頭辞 micro- は ‘small’ の意味であるギリシャ語 *mikros* を起源とし，接頭辞として 1. ‘small’（例: microcar), 2. ‘denoting a factor of one millionth’（例: microfarad）の意味を持つ。

ODE では名詞 micro の意味は ‘microcomputer, microprocessor; a very short miniskirt or minidress’ である。OED では，microcomputer の初出例が 1956 年，短縮語の初出例は 1971 年，microprocessor の初出例が 1969 年，短縮形の初出例は 1978 年であり，ともに基体と短縮語の初出例登場まであまり隔たりが無い。

OED では名詞 micro の基体として，他に ‘microlepidoptera（小蛾類）’, ‘microwave oven’ が記録されており，語形短縮の例といえる。

（26）の micro は microcomputer からの語形短縮として用いられている。

（26） This then allows the <u>micro</u> to send data via some lengthy USB cables and a hub（for the three of us）to a laptop.

（OSD, *micro*=microcomputer, noun）

また，名詞 micro は ‘An extremely short miniskirt or minidress..’ の意味で 1968 年に登場するが，特定の基体からの語形短縮ではなく，接頭辞 micro-

の転換であると考えられる。

4.1.2. 形容詞 micro

ODEでは形容詞microの意味は ‘extremely small’ とあり，OEDにおいても形容詞microの意味として ‘Small-scale; very small.’ とあり，（27）は接頭辞micro-からの転換と考えられる。

（27）Many people think on a micro level.　（ODE, *micro*, adjective）

OEDではmicroeconomicの短縮語としても記載されているため，形容詞microは接頭辞micro-の転換のみではない。（28）のmicroはmicroeconomics（ミクロ経済学の）である。

（28）These politics amounted to a straightforward Keynesian expansion with some minor addition of a more micro nature.
（OED, *micro*=microeconomics, adj.[3]）

4.2. mini

4.2.1. 名詞 mini

ODEによると，名詞としてのminiの意味は，1. ‘ a very short skirt or dress’, 2. ‘short for minicomputer’ とあり，短縮語として1960年代に現れる。

OEDでは‘A miniskirt or minidress..’ の意味でのminiの初出例が1966年，miniskirtの初出例は1962年，minidressの初出例は1965年であるため，基体と短縮語はほぼ同時期に登場している。また，minicomputerの初出例が1967年，短縮語miniの初出例は1971年であるため，やはり同時期に現れる。

（29a）はmini-skirt（minidress），（29b）は minicomputerの短縮語miniの使用例である。

（29）a. One after another, Arab states are banning the mini.
（OED, *mini*=miniskirt, n.[2]）

b. Desktops did well with sales growing from 416,000 to 687,000 units with the impact of the Mac mini.（OSD, *mini*=minicomputer, noun）

OEDによると，他に名詞としてのminiの意味として ‘An item which is manufactured to be considerably smaller than the standard or usual size.’ とある。

（30a）の名詞miniは機械の部品，（30b）の名詞miniは食品である。

（30） a. Since these minis, like all machines, are more-or-less equal to the sum of their parts, we’ve decided to take a close look at the individual components and their characteristics. （OED, *mini*, n.[4]）

b. The new-size Rainbow Chips Deluxe cookie and other minis. （OED, *mini*, n.[4]）

以上から名詞miniは特定の派生名詞からの語形短縮の例と，接頭辞mini-の転換であると考えられる例がみられる。

4.2.2. 形容詞 mini

ODEによると接頭辞mini-の意味として，‘very small or minor of its kind; miniature’（例: minicab, minicomputer）とあり，形容詞としてのminiの意味は ‘denoting a miniature version of something’ とある。

OEDでは形容詞としてのminiはminiatureの短縮語とあり，意味は “Very small, tiny.” とある。

（31a）は形容詞miniの叙述用法の使用例で，（31b）は限定用法で，最上級でも使われている。

（31） a. Of course 25,000 cases is pretty mini. （OED, *mini*, adj.）

b. Girls prance on the longest legs, in the mini-est skirts and the kinkiest boots. （OED, *mini*, adj.）

OEDにおいて，ラテン語源の形容詞miniatureの初出例は1714年である。OEDにおける形容詞miniは初出例が1963年であり，約250年の隔たりがある。OEDでは形容詞miniは形容詞miniatureからの語形短縮である。形容詞miniは叙述用法と限定用法の両方で使用できるが，形容詞miniatureは限定用法のみという違いがみられる。

4.3. sub

4.3.1. 名詞 sub

ODEによると接頭辞sub-は ‘under, close to’の意味を持つラテン語*sub*を起源とし，1. ‘ at, to, or from a lower level or position’（例: subalpine）, 2. ‘somewhat; nearly; more or less’（例: subantarctic）, 3. ‘denoting subsequent or secondary action of the same kind’（例: sublet, subdivision）, 4. ‘denoting support’（例: subvention）, 5. ‘in names of compounds containing a relatively small proportion of a component’（例: suboxide）の5つの意味を持つ。

ODEではsubは名詞と動詞が記載されている。名詞subには1. ‘a submarine’, 2. ‘a subscription’, 3. ‘a substitute, especially in a sporting team’, 4. ‘a subeditor’, 5. ‘an advance or loan against expected income’ の5つの意味がある。1.から4.までは接頭辞sub-が付与した派生名詞が記載されているが，5.については接頭辞sub-が付与する派生名詞が記載されていない。

OEDにおける1.の意味での初出例は1915年（submarineの初出例は1703年），2.の意味での初出例は1711年（subscriptionの初出例は1409年），3.の意味での初出例は1777年（substituteの初出例は1391年），4.の意味での初出例は1822年（subeditorの初出例は1811年）である。

OEDにおいて，5.については，subsistの短縮語とあり，初出例は1779年（5.の意味でのsubsistの初出例が1814年，複合語subsist moneyの初出例は1749年）である。

（32）におけるそれぞれのsubは（32a）がsubmarine,（32b）がsubscription（定期購読契約），（32c）がsubstitute（代理），（32d）がsubeditor,（32e）がsubsist（前借り）からの短縮語としてsubが使用されている。

（32）a. Upon returning to Australia, the <u>sub</u> will dock at Australian Submarine Corporation in Adelaide. （OSD, *sub*=submarine, noun）

b. Additionally, Time Inc. has nearly 20 percent of its <u>subs</u> on credit cards. （OSD, *sub*=subscription, noun）

c. He came on as <u>sub</u>. （OALD, *sub*=substitute, noun）

d. He is an adult education lecturer and I am a <u>sub</u> on a newspaper. （OSD, *sub*=subeditor, noun）

e. Ask the employee tactfully why she needs the sub.
（OED, *sub*=subsist, n.[6]）

OEDでは短縮語subの基体名詞として，他にsubaltern, subscription, subject, subsalt, sub-editor等を記載しているため，（32）以外の基体名詞が存在する。

4.3.2. 動詞sub

ODEでは動詞subは1. ‘ replace or be replaced; substitute’, 2. ‘lend or advance a sum to（someone）against expected income’, 3. ‘sub-edit’の3つの意味がある。2.の意味においては特定の派生動詞が記載されておらず，語形短縮よりも接頭辞sub-からの転換とみられる。

OEDにおける1.の意味での初出例は1853年（substituteの初出例は1447年），2.の意味での初出例は1858年，3.の意味での初出例は1892年（sub-editの初出例は1830年）である。いずれの意味においての名詞subの方が古くから存在する。

（33a）はsubstitute,（33b）はsub-editからの短縮語である。

（33）a. He was subbed after just five minutes because of a knee injury.
（OALD, *sub*=substitute, verb）
b. Rebecca Saffer’s.. subbed the article and scheduled it for her next issue. （OED, *sub*=sub-edit, v.[4]）

「（給料・賃金の）前借り・前貸しをする」という意味のsubについては，OEDにおいても基体動詞が確認できない。（34a）のsubは「前貸しをする」，（34b）のsubは「前借りをする」という意味で用いられ，これらは接頭辞sub-からの転換であると考えられる。

（34）a. Could you sub me £50 till next week? （OALD, *sub*, verb）
b. She was subbing her wages from me a week in advance.
（OED, *sub*, v.[3]）

接頭辞sub-はsuc-（succeed, success等）, suf-（suffer, suffix等）, sug-（suggest, suggestion等）, sum-（summary, summit等）, sup-（support, suppress等）, sur-（surface, surround等）, sus-（suspect, sustain等）の変異体（variant）が存在するが，それらは語彙化していない。

変異体を多く持つ接辞が語彙化する訳ではなく，例えば，接頭辞in-（inactive, instant等）はsub同様，ig-（ignoble, ignorance等）, il-（illegal, illiterate等）, im-（immortal, impossible等）, ir-（irrational, irresponsible等）といった多くの変異体を持つが，接頭辞in-やその変異体は語彙化していない。接辞が語彙化する条件と接辞の変異体の多さとの関連性はみられない。

4.4. ex

ODEではexは名詞であり，接頭辞ex-の独立した用法（independent usage）として19世紀初頭（OEDでの初出例は1827年）に登場とある。

ODEによると接頭辞ex-は‘out of’の意味をもつラテン語*ex*を起源としている。接頭辞ex-の意味は6つに分けられ，1. ‘out’（例: exclude, excite）, 2. ‘upward’（例: extol）, 3. ‘thoroughly’（例:excruciate）, 4. ‘denoting removal or release’（例: excommunicate, exculpate）, 5. ‘forming verbs which denote inducement of a state’（例: exasperate）, 6. ‘forming nouns which denote a former state’（例: ex-husband, ex-convict）とある。

名詞exは，接頭辞ex-の6.の意味における派生名詞（例: ex-husband, ex-wife, ex-boyfriend, ex-girlfriend, etc.）の短縮語である。

（35a）のexはex-husbandからの短縮語であるが，（35b）についてはex-wife, ex-husband, ex-girlfriend, ex-boyfriend等の可能性がある。

（35）a. The children are spending the weekend with my ex and his new wife.
（OALD, *ex*=ex-wife, noun）

b. I bumped into my ex in town.
（LDCE, *ex*=ex-wife, ex-husband, ex-girlfriend, ex-boyfriend, etc., noun）

OEDではexについて，‘One who formerly occupied the position or office denoted by the context; *spec*. a former husband or wife.’とあり，コンテクストによっては基体として様々な接頭辞ex-の意味を含む基体が存在する。そ

のため，接頭辞ex-からの転換とみなすことができる。(36) のexは元カトリック信者（元シスター）を指す。

(36) The various kinds of Ex's [*sc*. Ex-Catholics] are allowed to advertise their nasty anti-Catholic talks. (OED, *ex*=ex-Catholic, n.[1])

接頭辞ex-には変異体（variants）としてe-（edict, eject, emit等）が存在するが，接頭辞ex-の変異体e-は語彙化していない。

4.3. まとめ

今後，様々な商品開発が進むに伴い，色んな接辞が付与した派生語が登場し，その基体からの短縮語が登場する可能性がある。しかし，1つの接辞が多くの基体からの短縮語となってしまう場合，語形短縮よりも接辞の転換と捉えるべきであるといえる。現状のように語形短縮と転換とが共生するのか，あるいは将来的に転換のみで使用されるのかについて，今後の変化に注目したい。

5. 結語

今回，接辞が語彙として使用される例を3つのパタンに分類したが，調査対象は一部に留まっており，さらに多くの語として使用される接辞を取り上げる必要がある。

Kodani（2000: 44）では接頭辞non-付与の例として，LDCEでは55語の記録に対し，RHUDにおいては5950語の記録とあり，記載数は辞書における隔たりが大きい。本稿では接辞が語として辞書に記載された例のみを調査対象としたが，辞書において語として記載されていないものの，実際の場面では語として使用される接辞が多く存在する可能性が想定されるため，辞書以外でも調査を行う必要がある。

西川（2013: 183-205）における主な接辞の語源リストではアングロ・サクソン語が72（接頭辞19，接尾辞53），ギリシャ語が67（接頭辞38，接尾辞29），ラテン語が63（接頭辞30，接尾辞33）であった。西川（2013: 28）では，英語語彙の約30%が本来の英語（アングロ・サクソン語起源）であ

り，残りが外来語とある。西川（2013: 183-205）における接辞の語源リストにおいても，アングロ・サクソン語起源の接辞の割合も約35%であり，おおよそ一致する。この割合と接辞が語として使用される語源的割合の関連性について，調査対象を増やし，さらなる考察を行いたい。

注

1. 接辞とよく似ているもので，連結詞（CF: combing form）がある。接辞と連結詞とを区別する辞書（OED, CED（Collins English Dictionary）, WEB（Webster's New World Dictionary of American English））もあれば，区別しない辞書（LDCE, AHD（American Heritage Dictionary））も存在する（西川 2013: 16-18）。本稿は複数の辞書を参照するため，接辞と連結詞の区別を行わず，連結詞を接辞に含めるものとする。
2. 現在でも使われている接辞の数として，竝木（1985）では接頭辞70以上，接尾辞約90としている。
3. 西川（2013: 16）による接頭辞の種類の数と接尾辞の種類の数については大差がないと言えるが，接尾辞が語のように使用される例は接頭辞に比べ，極めて少ないというのが今回，辞書の調査で判明した。
4. 語彙が接辞付与ではなく綴りがそのままで形容詞から動詞，動詞から名詞などの品詞の変化が生じる現象があり，その過程について，転換（conversion），ゼロ派生（zero-derivation），機能推移（functional shift）等がある。それぞれの分析の違いについては米倉（2015: 54-81）が詳しい。本稿では接辞の語彙化を転換（conversion）とするHuddleston and Pullum（2002: 1640）に従う。
5. 例えばmathematicsがmath，telephoneがphoneのように語彙が略されることをBauer（1983）では 'clipping' としている。竝木（2009）ではclippingのことを「語形短縮」としている。また，clippingを受けた語のことを竝木（1985），島村（1990）では「短縮語」，大石（1988）では「略語」としている。
6. 本稿ではギリシャ語源及びラテン語源に関してはギリシャ文字及びラテン文字表記ではなく英語アルファベットに変換したODEの記載に基づく。
7. 『ジーニアス英和大辞典』収録約25万5千語の中で重要度の高い語を2つのランクに分け，Aランク約3500語の見出しには '⁑'，Bランク約5300語には '*' を記しており，homosexualには '⁑' が，homosexualityには '*' が付けられている。
8. ismとistについてそれぞれ別々の語彙・接辞として扱うべきとも考えられるが，語源の観点から本稿では同じ節内で扱う。
9. （20b）でのラテン語源の接尾辞-ianが名詞ianとして用いられているが，OED, ODE, OALD, LDCE,『ジーニアス英和大辞典』，『リーダーズ英和辞典』にお

いて，ianは接頭辞としてのみ記載されており，語としては確立していない。

辞書

The American Heritage Dictionary of the English Language（2016）5th ed. Boston: Houghton Mifflin. [AHD]
Collins English Dictionary（2018）13th ed. Glasgow: Collins. [CED]
Longman Dictionary of Contemporary English（2014）5th ed. Harlow: Pearson Education Limited. [LDCE]
Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English（2020）10th ed. Oxford: Oxford University Press. [OALD]
Oxford Dictionary of English（2010）3rd ed. Oxford: Oxford University Press. [ODE]
Oxford English Dictionary Online.（2000-present）Oxford: Oxford University Press. Retrieved Oct. 10, 2022 from https://www.oed.com/ [OED]
Oxford Sentence Dictionary.（2008）Oxford: Oxford University Press. [OSD]
Random House Unabridged Dictionary（1993）2nd ed. New York: Random House. [RHUD]
Shorter Oxford English Dictionary on Historical Principles（2007）6th ed. Oxford: Oxford University Press. [SOED]
Webster's New World Dictionary of American English（1991）3rd College ed., rev. & updated. New York: Prentice Hall. [WEB]
『現代カタカナ語辞典』（2015）東京: 旺文社.
『ジーニアス英和大辞典』（2001）東京: 大修館書店.
『新英和大辞典』（2002）第6版. 東京: 研究社.
『大辞林』（2019）第4版. 東京: 三省堂.
『リーダーズ英和辞典』（2012）第3版. 東京: 研究社.

参照文献

Bauer, Laurie.（1983）*English Word-formation*. Cambridge: Cambridge University Press.
Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum（2002）*The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
Kodani, Shinichiro（2000）*English Words: Word-Formation & Evaluable Words*. Kyoto: Ryukoku Gakkai.
竝木崇康（1985）『語形成』（新英文法選書2）東京: 大修館書店.
竝木崇康（2009）『単語の構造の秘密: 日英語の造語法を探る』（言語・文化選書14）東京: 開拓社.
西川盛雄（2013）『英語接辞の魅力: 語彙力を高める単語のメカニズム』（言語・文

化選書 39）東京: 開拓社.
大石強（1988）『形態論』（現代の英語学シリーズ 4）東京: 開拓社.
島村礼子（1990）『英語の語形成とその生産性』東京: リーベル出版.
米倉綽（2015）『歴史的にみた英語の語形成』（言語・文化選書 54）東京: 開拓社.

（龍谷大学短期大学部）
himeda@mail.ryukoku.ac.jp